

令和6年度 都市経済常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 小川裕暉 (副委員長) 長谷川由美 (委員) 杉本啓子 (委員) 山口順平
(委員) 藤本恵祐 (委員) 加藤大嗣 (委員) 滝口友美

2 視察日時

令和6年10月28日(月曜日) 午前・**午後**2時00分から午前・**午後**3時30分まで

3 視察先

兵庫県豊岡市

4 視察事項

(1) 市民、地域、事業者の連携した「豊岡ローカル」強化および市内外に豊岡の魅力を伝える取組について

5 視察概要

	(担当 長谷川 由美)
視察先選定理由	市民、地域、事業者が連携して持続可能な観光振興や地域振興を推進する取組が進んでいるためである。特に「豊岡ローカル」というキーワードを軸にした地域の観光振興施策が注目されており、このアプローチは、茅ヶ崎市が目指す地域資源を活用した観光振興の発展に参考になると考えたためである。
内 容	豊岡市出席者 豊岡市議会議長 浅田 徹 様 議会事務局 菅谷祐一 様 豊岡市観光文化部観光政策課 課長 恵後原博美様 課長補佐 石本 顕一様 政策提言のテーマ「茅ヶ崎らしいツーリズムについて」の調査の一環として、兵庫県豊岡市を訪問した。 豊岡市は、兵庫県の北部に位置しており、面積は697km ² と東京23区と同じ位で非常に大きな市域である。城崎温泉があり、有名ではあるものの、首都圏はもとより、京阪神圏からさえアクセスが良いとは言えない。しかしながら、強みを生かし、観光来訪者の動向の分析を継続的に行うなど、戦略的な視点からの取り組みでコロナ後の回復と新たな展開に向けて順調に進んでいるようである。 豊岡市では、観光振興の方針として「小さな世界都市」＝「ローカル&グローバル」を掲げ、豊岡

市のもつ強みを磨き、生かすことを徹底している。

観光資源としては、有名な観光地である城崎温泉、広い市域には平野部、山があり田んぼでは「このとり」の保護に力を入れたことで、今ではブランド米となっている。海もあり、雪も多く自然の資源が豊富にある。外国人観光客もコロナ以前に回復しつつある中、宿泊客の属性を分析し、その傾向から対策を取るなどの取組が行われている。

観光振興のために、豊岡観光イノベーションが設立され観光政策の実行部分を担っている。そして、観光協会、市民団体、観光事業者が連携を強化して、観光政策を推進しているとのことである。

「共存共栄」の精神から

1925年の北但馬地震後、「共存共栄」という考え方が地元住民に根付いており、まち全体として協力するという素地があるという。この良い例が、城崎温泉の外湯巡りに代表される特徴を作っており、1軒ずつの旅館が儲かれば良いのではなく、温泉街全体が1つの旅館のようなイメージで機能する。これにより、外湯巡りでいくつもの温泉に入る、飲食をする、建物は木造三階建てで統一するなどの魅力を作っている。

インバウンド施策

欧米、オーストラリアをターゲットとして、いまや主流である個人旅行を取り込むため、「Visit Kinosaki」という多言語対応型のサイトを立ち上げアピールしている。また体験型の観光を進めている。

※行政視察の様子



考 察

豊岡市は、自然環境、文化などのもつ魅力を明確にし、市民、地域、業者が、その「強み」を認識し、共通の戦略としてまとまる力が強いように感じられた。

また近年の動向についてデータを元にして分析し、それをその後の活動に反映させる取組は、取り入れるべきものであると考える。

インバウンドの誘致については、明確なターゲットを持つことでより戦略

的な対応ができると考えられる。

旅行は、個人旅行が主流であり、訪問する地域のもつ文化などを反映させ、知的体験型のモデルを提供することで、市民、住民に過度の負担がかからないツーリズムの創出と定着が望めるのではないかと考える。

豊岡市に「共存共栄」の考え方が根付いていることは、とても有利な特徴で、これを茅ヶ崎市に置き換えるならば、市域の大きさでは、湘南地域全体が「共存共栄」地域として機能することで大きな力になると考えられる。自身の強みを理解し、それを共通の認識にして磨き上げること。さらにターゲットを定め発信をすること。その反響を元に、その後につなげること。といったサイクルが必要とされていると考えた。